

令和5年度

琉球大学大学院医学研究科（博士課程）

学生募集要項

一般、社会人及び外国人留学生志願者、入学資格の認定による志願者の出願日程は、以下のとおりです。募集人員に満たなかった場合は第2次募集を行います。

【一般入試、社会人入試及び外国人留学生入試】

| | 第1次募集 | 第2次募集 |
|-------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 出願期間 | 令和4年8月3日（水） ～8月10日（水） （土、日を除く） | 令和5年1月24日（火） ～1月31日（火） （土、日を除く） |
| 審査結果※ | 令和4年9月5日（月） | 令和5年2月7日（火） |
| 選抜試験 | 令和4年10月1日（土） | 令和5年2月18日（土） |
| 合格発表 | 令和4年10月24日（月） | 令和5年3月14日（火） |

※入学資格審査のみ

○新型コロナウイルス感染拡大状況や台風等の災害によって募集日程や選抜方法を変更する場合があります。募集日程や選抜方法を変更する場合は琉球大学医学部ホームページでお知らせいたしますので、必ずご確認ください。

琉球大学大学院医学研究科

琉球大学大学院医学研究科

【アドミッションポリシー】

(博士課程)

- 1 生命医療科学における次世代のリーダーを目指して深い学識と先駆的な研究能力を培い、国際的な場で活躍する研究者・教育者を志す人
- 2 先端的医療を実践するために高度な知識や技術を身につけ、研究マインドを備え、高度専門職業人として地域の医学・医療水準の向上のために指導的な役割を担える臨床医を目指す人

【カリキュラム・ポリシー】

- 1 研究分野間の有機的な連携による教育体制を構築する。
- 2 包括的で多様な知識や技術獲得を促す学生指導を行う。
- 3 国際的な活躍、かつ、リーダーシップを発揮する高度な人材を育成するため、異分野横断的な大学院プログラムを展開する。
- 4 最新の生命科学の知識を提供する。

【ディプロマ・ポリシー】

(修士・博士課程共通)

研究・生命科学・医療において正しい倫理観を備える。

(博士課程)

- 1 より広範な学識や技術、臨床能力を有し、高度専門職業人として、使命遂行に貢献できる。
- 2 研究成果を世界展開できる。
- 3 医療の高度化と医療関連産業の活性化に貢献できる。
- 4 亜熱帯・島嶼地域に潜在する医療問題に取り組み、解決できる。
- 5 異分野間のチームで新しい医療に取り組むことができる。

募集要項、入学願書等の郵送による請求方法

『令和5年度大学院医学研究科(博士課程)学生募集要項』と朱書し、返信封筒(角型2号・返信切手速達希望470円、普通希望210円貼付・受取人の住所、氏名、郵便番号を明記)もしくは、レターパックを同封し、下記あてに請求してください。

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地
国立大学法人琉球大学 上原キャンパス
事務部学務課(医学部) 入試・学事係
☎ (098) - 895 - 1032又は1053

目 次

| | |
|--|----|
| 学生募集要項 | 1 |
| 1. 専攻及び募集人員 | 1 |
| 2. 出願資格 | 1 |
| 3. 入学資格認定 | 2 |
| 4. 出願期間及び手続（入学資格審査を含む） | 2 |
| 5. 災害等により被災した令和5年度琉球大学入学者選抜試験志願者の検定料に関する 特例措置について | 5 |
| 6. 選抜方法 | 6 |
| 7. 合格発表 | 6 |
| 8. 入学手続 | 6 |
| 9. 注意事項 | 6 |
| 10. 第2次募集について | 7 |
| 11. 長期履修制度について | 7 |
| 12. 入学料及び授業料 | 8 |
| 13. 奨学金制度 | 8 |
| 14. 保険について | 8 |
| 15. 障がい等を有する者、疾病・負傷等を有する入学志願者の事前相談について | 8 |
| 16. 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン（琉球大学大学院コース）」について | 9 |
| 研究科案内 | 10 |
| 出願書類様式等 | |

学生募集要項

1. 専攻及び募集人員（募集人員には、社会人、外国人留学生を含む。）

| 専攻 | プロジェクト | 募集人員 |
|----|---|------|
| 医学 | 健康長寿医学 亜熱帯医学 社会医学 再生・再建医学 臨床研究教育学 | 30名 |

注1. 社会人とは、病院、研究所、官公庁、企業等において医師、研究者等として勤務し、入学後もその身分を有する者とする。

注2. 入学志願者は、第2志望まで出願することができる。

2. 出願資格

- (1) 大学〔医学部医学科、歯学部、薬学部（6年の課程）又は獣医学部（6年の課程）〕を卒業した者及び令和5年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士（医学、歯学、薬学、又は獣医学）の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学、又は獣医学）を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が5年以上である課程（医学、歯学、獣医学又は薬学を履修する課程に限る。）を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和5年3月までに授与される見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（注を参照）
- (8) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和5年4月1日までに24歳に達した者

(注)

1. 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し、これらの学部を卒業した者
2. 防衛庁設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者
3. 修士課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者〔学位規則の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規則

(昭和28年文部省令第9号)6条第1号に該当する者を含む。)で大学院又は専攻科において、医学、歯学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

4. 大学(医学、歯学、薬学、又は獣医学を履修する課程を除く。)を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院又は専攻科において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学、薬学、又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

大学院設置基準第14条による教育方法の特例による教育の実施について※趣旨

近年、医療技術の進歩により社会は複雑高度化し、医療及び福祉への急速なる変革をもたらしています。大学院にあっては、一層の学術の高度化と総合化、創造的職業人養成の強化が急務となり、社会人にあっては、最新の医療技術、医療機器に対応するための日常的研鑽が必須になってきています。

そこで本研究科では、大学院設置基準第14条特例の昼夜開講制による授業を実施します。昼夜開講制とは、夜間や特定の時間又は時期に授業・研究指導の時間を設け、現に実施診療にあたっている医師、企業に勤務している社会人技術者、教育者及び研究者等の社会人に大学院の授業、研究指導をより受け入れ易くする制度です。

(注) 大学院設置基準第14条

「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」

3. 入学資格認定

出願資格の(7)の注4、(8)に該当する者については下記(1)に定める書類が必要になります。

- (1) 入学資格の認定に必要な書類(※印は本研究科所定の用紙)

| 必要書類等 | 備考 |
|---------|----------------------------------|
| 志望理由書※ | 本研究科を志望した理由及び、入学後の研究志望の概要を記入すること |
| 研究業績目録※ | 学術論文等を別刷又は写で添付すること |
| 研究歴証明書※ | 大学、研究所等において研究に従事したことのある者 |

※出願に際しては、必ず希望する指導教員と連絡を取り提出すること。

4. 出願期間及び手続(入学資格審査を含む)

- (1) 出願者は、次の書類及び入学検定料納付証明書(大学用)を添えて、出願期間内に提出すること。

出願期間 令和4年8月3日(水)～令和4年8月10日(水)(土、日を除く)

受付時間 午前9時～午後5時

期限後に到着した場合は受理しません。

郵送の場合は、必ず『書留』とし、封筒に「大学院医学研究科(博士課程)入学志願書類在中」と朱書きして令和4年8月10日(水)午後5時までに必着のこと。

提出先 〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

国立大学法人琉球大学 上原キャンパス事務部学務課(医学部)入試・学事係

TEL 098-895-1032 又は 1053

- (2) 入学資格審査の結果通知

審査は提出された申請書類により行い、結果は、令和4年9月5日(月)に本人あてに通知書を送付します。

(3) 出願書類

| 出願書類等 | 摘 要 |
|-----------------|---|
| ①入学志願票 | <p>本学所定の用紙に必要事項を記入すること。 ※職歴等記載欄が足りない場合は、別紙（A4様式自由・左上に氏名を記載）を提出してください。</p> |
| ②成績証明書 | <p>所定の用紙により出身大学（学部）長が作成し、厳封したもの。なお、大学院修士課程修了者（修了見込み者を含む。）にあつては、当該研究科の長が作成し、厳封した成績証明書を併せて提出すること。</p> |
| ③卒業（修了）又は見込み証明書 | <p>様式随意</p> |
| ④検定料納付証明書（大学用） | <p>検定料 30,000円（別添の「検定料振込書」を使用してください） 検定料振込期間 令和4年7月27日（水）～8月10日（水） ※令和5年3月31日に本学大学院（修士課程・博士前期課程）及び国費外国人留学生を修了し、引き続き本課程に進学する者は不要。 ※特例措置対象者（P5参照）は、検定料を振込まず申請手続を行ってください。</p> <p>1. 振込方法</p> <p>ア. 検定料振込書の※印欄を黒のボールペン（消えるボールペンは不可）で正確に記入してください。 《依頼日、入学志願者氏名（フリガナ）、住所、電話番号、振込先（枠内に○印）》</p> <p>イ. 必ず金融機関（銀行等）の窓口で振り込み、ATM（現金自動預払機）は使用しないでください。</p> <p>ウ. 振込手数料については志願者本人負担となります。</p> <p>エ. 金融機関窓口から「検定料納付証明書（大学用）」を受け取る際は<u>取扱金融機関収納印を確認</u>してください。</p> <p>オ. 「検定料納付証明書（大学用）」は<u>出願書類</u>に同封して提出してください。 ※この募集要項添付の「検定料振込書」が使用できない場合は、各金融機関備付の振込依頼書で振込んでください。 振込依頼人氏名は、先に募集要項区分（医学研究科博士課程は741）、次に志願者本人氏名としてください。 例 741 タ イカ クタロウ 振込先口座、金額及び募集区分は「検定料振込書」で確認してください。 受領書の写しを「検定料納付証明書（大学用）」の代わりに提出してください。</p> <p>2. 留意事項</p> <p>ア. 検定料が振込まれていない場合、「検定料納付証明書（大学用）」が出願書類に同封されていない場合、「検定料納付証明書（大学用）」に取扱金融機関収納印がない場合は、出願書類を受理しません。</p> <p>イ. 既納の検定料は次の場合を除き、いかなる理由があつても返還しません。 ①検定料を振込んだものの、出願しなかった場合（出願書類を提出しないまま受付期限が終了したり、書類不備等により出願書類が受理されなかった場合）</p> |

| 出願書類等 | 摘 要 |
|------------------------|--|
| ④検定料納付証明書 (大学用) | <p>②誤って検定料を二重に振込んだ場合 ③特例措置対象者(P 5 参照)が検定料を振込んだ場合</p> <p>※上記①、②に該当する場合は、(1)現住所、(2)電話番号、(3)志願者本人氏名(フリガナを明記)、(4)納付年月日、(5)納付金額、(6)返還請求の理由、(7)振込口座(①金融機関名、②支店名、③預金種別、④店番、⑤口座番号、⑥口座名義(フリガナを明記)を記入した「返還金払戻請求書」を作成し、氏名欄へ押印のうえ、「検定料納付証明書(大学用)」を同封して下記へ送付してください(封筒には「返還金払戻請求書在中」と朱書きしてください)。(返還は銀行振込で行います。保護者名義口座の場合は必ず続柄も明記してください。ゆうちょ銀行口座を指定する場合は、振込用の店名・店番・預金種目・口座番号を明記してください。返還には請求書受理後2～3ヶ月程度かかります。)</p> <p>※上記③に該当する場合は返還手続(P 5 参照)を行ってください。</p> <p>送付期限：令和5年3月31日(金)</p> <p>送付先：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地 琉球大学財務部経理課収入・支出係 TEL 098-895-8058</p> |
| ⑤受験票・写真票 | <p>本学所定の用紙に出願前3か月以内に撮影した、上半身、脱帽、正面向・縦4cm・横3cmの写真を所定の欄に貼付してください。</p> |
| ⑥受験票等送付用封筒 | <p>長形3号封筒に自己のあて先・郵便番号を明記し、必ず344円の切手を貼付してください。</p> |
| ⑦在留資格を証明する物 (該当者のみ) | <p>日本国内に居住している者は、入国査証(Visa)の写し、住民票の写し(市区町村長発行。記載事項の省略が無いもの。)等を提出すること。</p> <p>日本国内に居住していない者は、「入国カード」の写し又は旅券(パスポート)等の写しを提出してください。</p> |
| ⑧受験許可書 (社会人のみ) | <p>大学院に在学中の者は、大学長等の受験許可書を、また、官公署、会社等に在職中(予定者含)の者は、入学年度に在職(予定)する所属長の受験許可書(別紙様式)を提出してください。(本学大学院医学研究科、琉球大学病院に在職している場合は、所属する講座の長又は診療部科長の印)</p> |
| ⑨出願時におけるチェックリスト | <p>本学所定の用紙に必要な事項を記入してください。</p> <p>※志願者、指導予定教員が記入し提出。</p> |
| ⑩戸籍抄本 (該当者のみ) | <p>成績証明書及び卒業(修了)(見込み)証明書等に記載されている氏名と現在の氏名が異なっている者のみ提出してください。</p> |

※出願に際しては、必ず希望する指導教員と連絡を取り提出すること。

5. 災害等により被災した令和5年度琉球大学入学者選抜試験志願者の検定料に関する特例措置について
 琉球大学では、令和5年度の全ての入学者選抜に関して、被災者の経済的負担を軽減することにより、受験の機会を確保するため、以下のとおり特別措置を実施します。

(1) 措置内容

検定料の免除

大学院入試 30,000円

(2) 免除の対象者及び必要書類

| 対 象 者 | 必 要 書 類 |
|---|-----------------|
| A. 東日本大震災、熊本地震、平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震、令和元年房総半島台風、東日本台風及び令和2年7月豪雨における災害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、以下のいずれかに該当する者 | |
| ア 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合 | り災証明書 |
| イ 主たる家計支持者が死亡、又は行方不明の場合 | 死亡又は行方不明を証明する書類 |
| B. 居住地が福島第一原子力発電所事故により、帰還困難区域、居住制限区域又は避難指示解除準備区域に指定された者 | 被災証明書 |

(3) 申請の方法

本学所定の様式(検定料免除申請書)に、り災証明書等を添えて、出願書類とともに同封のうえ提出すること。

なお、申請する場合は、「検定料」を振り込まないよう注意してください。

また、すでに納付した検定料の返還を希望する場合は、本学所定の様式(返還金払戻請求書)に、り災証明書等を添えて各学部学務担当へ申請してください。申請後、検定料を返還します。

※返還金払戻請求書の提出期限：令和5年3月31日(金)

提出先

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

国立大学法人琉球大学 上原キャンパス事務部学務課(医学部)入試・学事係

TEL 098-895-1032又は1053

6. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、成績証明書の結果を総合して判断します。

(1) 学力検査の日時・試験科目

| 日 | 時 | 科目 | 備考 |
|------------------|--|----|---|
| 令和4年 10月1日(土) | 10:00 ～ 11:40 | 英語 | 筆記試験 辞書は英和、和英、医学辞書持込可 (電子辞書は持込不可) |
| 面接(口頭試問) | 指導予定教員と個別に行いますので、受験票が届きましたら速やかに連絡を取ってください。 | | |

注1. 受験者は、9時30分までに本学臨床講義棟2階の試験会場に集合すること。

注2. 「英語」の試験について次に該当する者は免除する。

(1) 本研究科、論文博士の外国語(英語)試験合格者(ただし合格時から6年間)。

(2) 次に該当する者

①英検1級合格者 ②TOEFL:PBT(580点以上)、CBT(237点以上)、iBT(92点以上)

③TOEIC(860点以上) ④国連英検特A級及びA級商業英語Aクラス

注3. 台風の接近が予想される際は、琉球大学医学部ホームページでお知らせいたしますので、ご確認をお願いします。(http://www.med.u-ryukyu.ac.jp/)

(2) 試験場 琉球大学医学部 臨床講義棟2階

7. 合格発表

合格者の発表は、令和4年10月24日(月)14時に本学上原キャンパス事務部学務課(医学部)(がじゅまる会館2F)前掲示板に掲示するとともに、合格者に対しては、郵送で通知します。

※ 発表に関しては、電話による問い合わせには一切応じません。

8. 入学手続

(1) 入学手続期間

令和5年3月中旬～下旬予定

(2) 入学手続場所

琉球大学上原キャンパス事務部学務課(医学部)入試・学事係

(注) 入学手続については、合格者あてに別途入学手続案内を送付します。

9. 注意事項

(1) 出願書類に不備がある場合には、受理しないことがあります。

(2) 出願書類の提出後は、いかなる理由があっても出願事項の変更は認めません。また入学検定料は返還しません。

(3) 記載事項に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

10. 第2次募集について

合格者が募集人員に満たなかった場合、次の期日に第2次募集を行います。

※ 出願手続、選抜方法等は、第1次募集に準じます。

(1) 出願期間及び手続(入学資格審査を含む)

出願期間 令和5年1月24日(火)～令和5年1月31日(火)(土、日を除く)

受付時間 午前9時～午後5時

検定料振込期間 令和5年1月17日(火)～令和5年1月31日(火)

郵送の場合は、必ず『書留』とし、封筒に「大学院医学研究科(博士課程)入学志願書類在中」と朱書きして出願期間内までに必着のこと。

(2) 入学資格審査の結果

結果通知 令和5年2月7日(火)に本人あてに通知書を送付します。

(3) 学力検査の日時等

令和5年2月18日(土)

※ 学力検査科目、試験時間については、第1次募集に準じます。

(4) 合格発表

令和5年3月14日(火)14時

本学上原キャンパス事務部学務課(医学部)(がじゅまる会館2F)前掲示板に掲示するとともに、合格者に対しては、郵送で通知します。

※ 発表に関しては、電話による問い合わせには一切応じません。

(5) 入学手続

入学手続期間 令和5年3月中旬～下旬予定

入学手続については、合格者あてに別途通知します。

11. 長期履修制度について

長期履修制度は、職業を有している等の事情により、標準修業年限で修了することが困難である学生を対象として、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することができ、かつ、その間の授業料の年額の負担を軽減することができる制度です。

希望者は、事前に指導教員と研究計画について相談し、職業を有する者は、長期履修制度の利用にあたっては、各自で勤務先の内諾等を得るようにしてください。

12. 入学料及び授業料

入学料 282,000円(予定額)

※ 令和5年3月31日に本学研究科修士課程(博士前期課程)を修了し引き続き医学研究科博士課程に進学する者は入学料を徴収しません。

授業料(前期分)267,900円(後期分)267,900円(年額535,800円)(予定額)

(注) ① 上記については予定額であり、入学時及び在学中に金額の改定が行われた場合は、改定時から新たな金額が適用されます。

② 授業料の納入については、本人の申し出により前期分の納入の際に、後期分も合わせて納入することができます。

③ 「入学料免除・徴収猶予」及び「授業料免除」制度があります。合格者に送付する「入学者心得」をご確認いただくか、学生支援課学生援護係にお問い合わせください。

13. 奨学金制度

日本学生支援機構の奨学金(貸与型)は、下記の方法で申し込みができます。詳細は琉球大学学生生活支援情報HP「奨学金」ページをご覧ください(下記URL参照)。

(1) 予約採用

大学院に進学する前に、事前に申請を受け付けます。

① 募集期間 9月下旬～12月中旬

② 申込方法 9月中旬に琉球大学学生生活支援情報HPで周知

(2) 定期採用

大学院に入学後に、毎年度申請を受け付けます。

① 募集期間 (春募集)入学～4月下旬 (秋募集)9月中旬～10月中旬

② 申込方法 春募集は3月下旬、秋募集は9月中旬に琉球大学学生生活支援情報HPで周知

<問い合わせ先>

学生部学生支援課奨学係 TEL : 098-895-8136

E-mail : gksygsn@acs.u-ryukyu.ac.jp

学生生活支援情報HP : <https://slsi.skr.u-ryukyu.ac.jp/gksien/>

14. 保険について

(1) 学生教育研究災害傷害保険(略称「学研災」)

(2) 学研災付帯賠償責任保険 医学生教育研究賠償責任保険(略称「医学賠」)※学研災のオプションです。

詳細は、合格者へ送付する「入学者心得」の際にお知らせします。

問い合わせ先：学生部学生支援課 学生援護係

電話：098-895-8135

上原キャンパス事務部学務課(医学部) 学生支援係

電話：098-895-1055

15. 障がい等を有する者、疾病・負傷等を有する入学志願者の事前相談について

本研究科へ入学を志願する者で、障がい等を有する者、疾病・負傷等がある者は、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがあるので、あらかじめ出願する際に上原キャンパス事務部学務課(医学部)入試・学事係(TEL 098-895-1032 又は 1053)に申し出てください。

16. 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン（琉球大学大学院コース）」について

九州地区の10大学（九州大学、福岡大学、久留米大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）が連携し、がんゲノム医療、希少がん・小児がん、ライフステージに応じたがん対策に対応できる人材を育成し、九州および日本におけるがん医療の一層の推進を図ります。

がんプロを希望する者は、受験票・写真票の「希望する（講座・プロジェクト）」欄に講座名とともに「がんプロ希望」と記載してください。

※出願する者は必ず指導予定教員に事前照会を行ってください。

詳細についてのお問い合わせ先

琉球大学医学部保健学科 血液免疫検査学分野 がんプロ養成プラン事務局

TEL：098-895-3331（内線2652）

— 個人情報の取扱いについて —

本研究科が入学者選抜を通じて取得した個人情報については、入学者選抜で利用するほか、次のとおり利用します。

- (1) 合格者の氏名等を入学手続きに関わる業務で利用します。
- (2) 入学手続き者の氏名等を入学後の学籍管理等、修学に関わる業務で利用します。
- (3) 入学手続き者及び学資負担者の住所・氏名等を授業料徴収など納入管理に関わる業務で利用します。
- (4) 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を、入学料免除・授業料免除及び奨学生選考など、修学支援に関わる業務で利用します。
- (5) 個人が特定できないように統計処理したデータを、入学者選抜に関する調査・研究などに利用します。

※本研究科が取得した個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き、出願者の同意を得ることなく他の目的で利用、または第三者に提供することはありません。

研究科案内

1. 目的

琉球大学大学院医学研究科（博士課程）は、医学の分野において、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を備え、かつ、教育・研究及び診察の分野で指導的役割を担う人材の養成を図り、医学の進歩と国民の福祉の向上に寄与することを目的とする。

2. 履修方法

修業年限は、4年を標準とする。

医学専攻は、共通科目5科目10単位は必修、専門教育科目は、プロジェクト関連科目から、1科目4単位を選択必修とし、所属する講座の講義科目1科目2単位と他講座の講義科目1科目2単位の2科目計4単位、特別演習（研究室ローテーション）4単位、大学院特別研究Ⅰ（演習）4単位、大学院特別研究Ⅱ（演習）4単位の計30単位以上を履修させ、専攻分野における学問研究の現況を把握させ、広い視野に立って自立して研究活動を行うための学識と技術を修得させるとともに、研究指導教員の下に、専門の研究課題について自発的に研究活動を行うのに必要な研究能力を備えさせられるように努める。

3. 医学研究科の博士課程の修了要件

医学研究科の博士課程の修了要件は、大学院に4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に3年以上在学すれば足りるものとする。

4. 学位の授与

博士課程を修了した者には、博士（医学）の学位を授与する。

博士課程（医学専攻）の概要

1. 設置の目的・趣旨

琉球大学大学院医学研究科博士課程は、「医学の分野全般において自立して研究活動を行う高度な研究能力と専門的かつ幅広い学識を備え、社会のニーズに対応した教育研究及び診療の分野で指導的役割を担う人材育成」を目的として、昭和62年に設置された。その後、平成15年に既設の3専攻が2専攻に改組され、平成26年には1専攻に再編された。

近年の医学の急速な進歩は、これまでの医学研究の枠組みを大きく変えつつあり、研究手法や関心領域が数年単位でめまぐるしく進化・変貌を遂げ、それぞれの研究領域が複合的に絡み合い学際的になっているという実態がある。そのような状況から、研究分野間の有機的な連携による教育体制や、包括的で多様な知識・技術の獲得を促す学生指導が無いと、国際的に活躍できる人材の育成は難しく、大きな研究の発展は望めない。日増しに複雑化・高度化の様相を見せる医学領域においてリーダーシップを発揮する高度な人材を育成するには、分野横断的な大学院プログラムを用意することが必須である。このような大学院教育が向かうべき方向性を踏まえて、平成26年の改組では、既存の2専攻を「医学専攻」に一本化し、コースワークとリサーチワークからなる体系的な教育課程を編成した。

2. 博士課程の構成

| | | |
|--------|----|-----------------|
| — | 1 | システム生理学 |
| — | 2 | 放射線診断治療学 |
| — | 3 | 脳神経外科学 |
| — | 4 | 眼科学 |
| — | 5 | 育成医学 |
| — | 6 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 |
| — | 7 | 精神病態医学 |
| — | 8 | 先進ゲノム検査医学 |
| — | 9 | 再生医学 |
| — | 10 | 分子解剖学 |
| — | 11 | ゲノム医科学 |
| — | 12 | 人体解剖学 |
| — | 13 | 分子・細胞生理学 |
| — | 14 | 薬理学 |
| — | 15 | 胸部心臓血管外科学 |
| — | 16 | 麻酔科学 |
| — | 17 | 整形外科学 |
| — | 18 | 腎泌尿器外科学 |
| — | 19 | 顎顔面口腔機能再建学 |
| — | 20 | 救急医学 |
| 医学専攻 — | 21 | 臨床薬理学 |
| | 22 | 薬物治療学 |
| | 23 | 医化学 |
| | 24 | 生化学 |
| | 25 | 腫瘍病理学 |
| | 26 | 細胞病理学 |
| | 27 | 衛生学・公衆衛生学 |
| | 28 | 法医学 |
| | 29 | 内分泌代謝・血液・膠原病内科学 |
| | 30 | 循環器・腎臓・神経内科学 |
| | 31 | 消化器・腫瘍外科学 |
| | 32 | 女性・生殖医学 |
| | 33 | 細菌学 |
| | 34 | 免疫学・寄生虫学 |
| | 35 | 皮膚科学 |
| | 36 | 先進医療創成科学 |
| | 37 | 感染症・呼吸器・消化器内科学 |
| | 38 | ウイルス学 |
| | 39 | 生体防御学 |
| | 40 | 感染免疫制御学 |
| | 41 | 臨床研究教育管理学 |
| | 42 | 形成外科学 |

医学研究科研究内容

○各メールアドレスの後の「u-ryukyu.ac.jp」を省略してあります。

○ダイヤルインの前の「098-895」は、省略してあります。

| 講 座 | 指導教員(教授) メールアドレス (ダイヤルイン) | 研 究 内 容 |
|-------------|-----------------------------------|---|
| システム生理学 | 宮 里 実 miyaz929@med (1111) | <ul style="list-style-type: none"> ・加齢にともなう自律神経変化と排尿障害機序の解明 ・排尿病態モデルを利用した排尿障害創薬研究 ・難治性骨盤痛を標的とした神経可塑性の研究 ・排尿を起点とした橋渡し研究とイノベーションの開発 ・母子隔離ストレスモデルを利用した排尿機能障害と中枢神経可塑性機序の解明 ・自閉症マウスモデルを用いた認知行動機能障害の機序分析 |
| 放射線診断治療学 | 西 江 昭 弘 nishie_a@med (1160) | <ul style="list-style-type: none"> ・がんの病理、治療効果、予後を予測する総合的な画像診断法の確立 ・放射線を用いた新たな腫瘍制御法の開発 ・多様な生体機能を抽出する画像診断システムの構築 |
| 脳神経外科学 | 石 内 勝 吾 ishogo@med (1169) | <ul style="list-style-type: none"> ・脳外科疾患に伴う脳機能障害の病態解明 ・興奮性シナプス伝達の制御及び逸脱の分子機構の解明 ・障害された脳機能の賦活獲得に関する脳賦活科学の構築 ・生涯健康脳獲得のための脳機能解析 ・海馬歯状回における神経新生の制御メカニズムの解明 ・神経膠芽腫の階層的構築の解明と革新的治療法の樹立 |
| 眼科学 | 古 泉 英 貴 hkoizumi@med (1180) | <ul style="list-style-type: none"> ・黄斑疾患・網脈絡膜疾患の疫学、予防、治療に関する研究 ・黄斑疾患・網脈絡膜疾患におけるバイオマーカーを用いた病態解析 ・非侵襲的眼底イメージング法の開発と臨床応用 ・緑内障における大規模コホート疫学研究 ・緑内障における隅角および房水流出路の形態解析と眼圧制御メカニズムの解明 |
| 育成医学 | 中 西 浩 一 knakanis@med (1155) | <ul style="list-style-type: none"> ・小児腎臓病の治療研究と病態解析 ・小児血液・腫瘍性疾患の治療研究と病態解析 ・先天性代謝異常の治療研究と病態解析 ・小児膠原病・リウマチ性疾患の治療研究と病態解析 ・新生児疾患の治療研究と病態解析 ・小児内分泌疾患の治療研究と病態解析 ・小児神経・筋疾患の治療研究と病態解析 ・小児アレルギー疾患の治療研究と病態解析 ・希少・難治性疾患の治療研究と病態解析 |
| 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 鈴 木 幹 男 suzuki@med (1181) | <ul style="list-style-type: none"> ・脳機能画像を用いた感覚・運動障害の評価 ・遺伝子性難聴の病態、診断 ・メニエール病治療法の開発 ・頭頸部悪性腫瘍発生、治療効果と関連する遺伝子群およびウイルス感染の検索 |
| 精神病態医学 | 近 藤 毅 kondo@med (1158) | <ul style="list-style-type: none"> ・気分障害の精神病理学および生物学的病態の機序解明 ・精神疾患の分子生物学的および神経生理学的な病態機序の解明 ・向精神薬の臨床薬理学的および薬理遺伝学的研究 ・各ライフサイクルにおける精神疾患の予防医学的研究 ・臨床睡眠学に関連した生理学および疫学的研究 |
| 先進ゲノム検査医学 | 前 田 士 郎 smaeda@med (1204) | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県民を対象とした全ゲノム解析(ゲノムワイド関連(相関)解析、全ゲノムシーケンス解析) ・生活習慣病の遺伝素因解明 ・環境因子と遺伝因子の相互作用解析 ・薬剤感受性および副作用にかかわるゲノム情報解明 ・生活習慣病の個別化医療および予防法(プレジジョンメディスン)の構築 ・沖縄県民の遺伝的多様性と人類史との関連研究 |

| 講 座 | 指導教員(教授) メールアドレス (ダイヤルイン) | 研 究 内 容 |
|-----------|---------------------------------|--|
| 再生医学 | 野口洋文 noguchih@med (1696) | <ul style="list-style-type: none"> ES、iPS 細胞から各臓器・組織への分化誘導 iPS 細胞、iPS 類似細胞の作製および機能評価 間葉系幹細胞(骨髄由来・脂肪由来)を用いた細胞療法 膵・肝細胞の分離・培養技術の開発 膵島移植成績向上を目指した技術改変 血糖反応性インスリン分泌機能を持ったデバイス開発 |
| 分子解剖学 | 高山千利 takachan@med (1103) | <ul style="list-style-type: none"> 中枢神経系における GABA 及びグリシンシグナルの形成機構に関する分子形態学的解析 遺伝子改変マウスを用いた GABA の機能解析 神経障害性疼痛のメカニズムと治療法開発に関する研究 損傷神経の再生機構に関する研究 |
| ゲノム医科学 | 新任教員 | 未定 |
| 人体解剖学 | 木村亮介 rkimura@med (1100) | <ul style="list-style-type: none"> 医用画像を用いた頭蓋顔面を中心とした形態変異の解析 顔面形態に関連する遺伝子多様型の同定 アジア人特異的な皮膚機能に関する遺伝子多様型の同定 ゲノム情報を用いたヒト集団形成史の復元 |
| 分子・細胞生理学 | 松下正之 masayuki@med (1106) | <ul style="list-style-type: none"> 低酸素・酸化ストレス応答機構の解明 ヒト iPS 細胞を用いた精神疾患の病態解明 |
| 薬理学 | 筒井正人 tsutsui@med (1133) | <ul style="list-style-type: none"> 一酸化窒素(NO)合成酵素系完全欠損マウスを用いた医学研究 食物アレルギーモデルマウスを用いた経口免疫寛容の研究 活性硫黄合成酵素トリプル欠損マウスの開発と機能解析 肺高血圧における新規遺伝子治療法の開発 心筋梗塞の発症における糞便(腸内細菌叢)移植の抑制作用 |
| 胸部心臓血管外科学 | 古川浩二郎 kojirof@med (1166) | <ul style="list-style-type: none"> 弁膜症手術における形成術の成績向上のための基礎的・臨床的研究 大動脈手術における脊髄障害発生のメカニズムの解明と予防法の開発 重症心不全に対する人工心臓治療の基礎的・臨床的研究 大動脈瘤に対する新規カテーテル治療の開発 Budd-Chiari 症候群の発症メカニズムの解明と低侵襲手術の開発 肥大型心筋症に対する外科治療の開発 |
| 麻酔科学 | 垣花学 mnb-shk@med (1187) | <ul style="list-style-type: none"> 主要臓器(特に肺、脳)の病変修復機構の解明と治療法の開発 虚血性脳・脊髄障害の発生機序解明と治療法の開発 運動誘発電位モニタリングによる脊髄機能評価法の臨床応用に関する研究 生体ガス分子を用いた臓器保護の機序解明ならびに臨床応用に関する研究 神経変性疾患に対する硫化水素の神経保護効果の分子生物学的研究 自然免疫と中枢神経障害の関連に関する研究 |
| 整形外科 | 西田康太郎 kotaro@med (1172) | <ul style="list-style-type: none"> 神経筋原性側弯症の病態・自然経過と治療戦略 沖縄県における骨粗鬆症治療に関する疫学調査 屈筋腱断裂における新しい縫合法の基礎研究 悪性骨・軟部腫瘍の特性を制御するマイクロ RNA の探索と新規抗がん剤の開発 バイオ 3D プリンターを用いたスポーツ障害に対する再生医療の技術開発—前十字靭帯再建術時の骨靭帯結合部の再生— 人工股関節置換術後の脊椎—股関節アライメント変化について |
| 腎泌尿器外科学 | 斎藤誠一 ssaito@med (1184) | <ul style="list-style-type: none"> 泌尿器系癌の腫瘍マーカー探索 泌尿器系癌の糖鎖生物学研究(SSEA-4を中心として) 泌尿器系癌の診断・治療に関する研究 下部尿路機能障害の研究 夜間頻尿と生活習慣病の疫学 |

| 講 座 | 指導教員(教授) メールアドレス (ダイヤルイン) | 研 究 内 容 |
|----------------|-------------------------------------|--|
| 顎顔面口腔 機能再建学 | 中 村 博 幸 hna@med (1190) | <ul style="list-style-type: none"> ・口腔癌微小環境での免疫寛容獲得機構の解明 ・口腔癌の浸潤・転移獲得機構の解明 ・口腔癌再発予防ペプチドカクテルワクチンの樹立に関する基礎的研究 ・顎関節症滑膜炎誘導機構の解明 ・歯髄幹細胞を用いた顎骨再生法の検討 ・地域脳健診での口腔機能と認知症の関連解析 |
| 救急医学 | 梅 村 武 寛 takeume@med (1197) | <ul style="list-style-type: none"> ・侵襲に対する生体の反応と制御についての研究 ・重症救急患者の病態解析と救命救急治療法の開発 ・救急医療システムと集団災害医療システムの研究 ・蘇生法の疫学研究 ・蘇生法の教育研究 |
| 臨床薬理学 | 植 田 真 一 郎 blessyou@med (1193) | <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病合併冠動脈疾患におけるコホート研究およびランダム化比較試験 ・薬剤コホート研究 ・薬物治療の至適化、個別化 ・心血管薬医師主導治験 ・ヒト血管薬理学 |
| 薬物治療学 | 中 村 克 徳 nkatsu@med (1346) | <ul style="list-style-type: none"> ・薬物代謝酵素、薬物トランスポータ、薬物受容体の遺伝子解析による個別化医療の研究 ・いわゆる健康食品と医薬品の相互作用回避のための調査研究 ・医薬品の適正使用のための調査研究 ・医薬品による副作用、特に重症薬疹の予測・対処法の臨床応用に関する教育・研究 ・沖縄県の特徴を踏まえた地域医療教育・研究 |
| 医化学 | 新 任 教 員 | 未 定 |
| 生化学 | 黒 柳 秀 人 hidehito@med (1112) | <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子発現の転写後制御機構の解明 ・遺伝子発現制御機構の破綻による病態形成機構の解明 ・拡張型心筋症モデルマウスの作製と解析 ・ゼブラフィッシュの先天性貧血疾患モデルの解析 |
| 腫瘍病理学 | 和 田 直 樹 wadan@med (1118) | <ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍の臨床病理学的解析 ・腫瘍幹細胞的性格を有する細胞分画の研究 ・リンパ形質細胞性リンパ腫の腫瘍幹細胞動態、分化動態、治療に関する研究 |
| 細胞病理学 | 未 定 | 未 定 |
| 衛生学・公衆衛生学 | 中 村 幸 志 knakamur@med (1136) | <ul style="list-style-type: none"> ・一般人での生活習慣・バイオマーカーと非感染性疾患（特に循環器系領域） ・公衆衛生の立場での生活習慣病予防対策 ・妊婦の生活習慣や環境と子どもの成長発達 |
| 法医学 | 二 宮 賢 司 ninomiya@med (1139) | <ul style="list-style-type: none"> ・減圧症の法医学的診断法の確立 ・海洋法医学的研究 ・局所への陰圧が生体に与える影響について ・薬毒物の体内動態および代謝 ・薬毒物の高感度分析法の開発 |

| 講 座 | 指導教員(教授) メールアドレス (ダイヤルイン) | 研 究 内 容 |
|-------------------------|----------------------------------|--|
| 内分泌代謝 ・血液・膠 原病内科学 | 益 崎 裕 章 hiroaki@med (1146) | <ul style="list-style-type: none"> ・食の嗜好性・食行動変容に関わる脳内分子メカニズムの解明と医学応用および新しい治療法・予防法の開発 ・人工知能 (AI)、IoT を活用する 2 型糖尿病・肥満症発症予防の行動科学に関する研究 ・血液悪性腫瘍の分子メカニズムの解明および新規の治療法・評価法の開発 ・アルコール依存・ニコチン依存の脳内分子メカニズムに関する研究 ・高尿酸血症の病態生理学的意義に関する基礎的・臨床的研究 ・メタボリックシンドロームの病態解明に関する研究 ・糖尿病・骨髄移植 (血液悪性腫瘍)、生活習慣病に関わる効果的チーム診療のシステム開発に関する研究 ・メタボロームを活用した代謝内分泌疾患、血液疾患、膠原病リウマチ疾患の病態解明と評価法の開発 ・FDG-PET/CT や機能的 MRI を活用した内分泌代謝疾患・血液悪性腫瘍の新しい評価法に関する臨床的研究 ・膠原病リウマチ疾患の病態解明、評価法・治療法の開発研究 ・成人 T 細胞白血病の病態、治療法、疫学に関する臨床的・基礎的研究 ・腸内フローラ・腸脳連関と認知症・うつ・生活習慣病に関する研究 |
| 循環器・腎 臓・神経内 科学 | 未 定 | 未 定 |
| 消化器・腫 瘍外科学 | 高 槻 光 寿 mtakal@med (2411) | <ul style="list-style-type: none"> ・食道癌切除リンパ節における微小転移巢の臨床的意義 ・Mieap 不活性化が胃癌の生物学的特性へ及ぼす影響について ・肛門管癌の病態解明と Staging (病期分類) に関する研究 ・大腸癌手術における縫合不全予防のための血流評価 ・肥満大腸癌患者に対する腹腔鏡下手術の腫瘍学的安全性の評価 ・不可逆性肝疾患に対する肝移植の成績改善のための研究 ・膵癌の治療成績向上のための分子生物学的研究 ・腸内細菌が免疫応答におよぼす影響についての研究 ・肝移植における免疫寛容についての研究 |
| 女性・生殖 医学 | 未 定 | 未 定 |
| 微生物学・ 腫瘍学 | | 学生募集は行っておりません |
| 細菌学 | 山 城 哲 tyamashi@med (1125) | <ul style="list-style-type: none"> ・コレラ菌の病原因子解析に関する研究 ・紅麹菌代謝産物によるコレラ菌の持つ病原性の抑制作用に関する研究 ・コレラ菌の Viable but Not Culturable (VBNC) の研究 ・レプトスピラ感染症の持続感染機構の解明に関する研究 ・細菌性バイオフィーム形成およびその防止に関する研究 ・コリスチン等多剤耐性菌の分子疫学的研究 ・沖縄県における下痢症の疫学的研究 |
| 免疫学・寄 生虫学 | 岸 本 英 博 hidek@med (1127) | <ul style="list-style-type: none"> ・免疫記憶誘導機構の分子細胞生物学的解析 ・胸腺における Negative Selection の分子機構の研究 ・新規がん免疫療法の開発 ・移植片に対する寛容誘導の研究 ・感染症のワクチン効果に関する免疫賦活剤の検討 ・感染症に対する新規抗体医薬品の開発 |

| 講 座 | 指導教員(教授) メールアドレス (ダイヤルイン) | 研 究 内 容 |
|------------------------|--|--|
| 皮膚科学 | 高橋 健造 kenzot@med (1153) | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄・琉球諸島に多い皮膚症の解析 ・カボジ肉腫・血管肉腫の発症病態の解明 ・ヒトの皮膚の創傷治癒遅延の解明 ・皮膚の内因性老化を促進する因子の探索 ・角化症治療薬の創薬 |
| 先進医療創 成科学 | 山下 暁朗 akyama21@med (1202) | <ul style="list-style-type: none"> ・がん抗原発現制御を中心としたがん免疫賦活化法の開発 ・mRNA 監視機構の基礎研究と希少疾患治療法の開発 ・疾患関連遺伝子由来 mRNA 転写後制御の基礎研究と診断・予防・治療法の開発 ・mRNA 転写後制御をターゲットにした創薬プラットフォームの構築 ・血液系腫瘍の発がんメカニズム解明と診断・予防・治療法の開発 |
| 感染症・呼 吸器・消化 器内科学 | 新 任 教 員 | 未 定 |
| ウイルス学 | 大野 真治 soono@med (1708) | <ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス感染メカニズムの解明 ・ウイルス感染症モデル動物の作出と解析 ・ウイルスの増殖、感染維持、病原性に関わるウイルス遺伝子と宿主因子の研究 ・シチズンサイエンスによる蚊媒介性感染症対策及び予測法の開発 |
| 生体防御学 | 松崎 吾朗 matsuzak@comb (8968) (千原地区) | <p>結核などの細菌感染症に対する免疫・生体防御反応の制御機構を研究の中心課題とする。特に以下の点について、マウスを用いた個体・組織レベルから、培養細胞を用いた細胞・分子レベルにいたる幅広い解析を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染防御におけるT細胞サブセットと炎症性サイトカインの役割の解明 2. 病原体の病原因子による免疫細胞制御の分子機構の解明 3. 免疫活性化制御あるいは病原因子阻害による新規抗結核免疫療法の開発 4. 病原体の免疫制御機能を活用した自己免疫疾患制御法の開発 |
| 感染免疫制 御学 | 新川 武 tarakawa@comb (8974) (千原地区) | <ul style="list-style-type: none"> ・腸管毒素原性大腸菌 (ETEC) 及び腸管出血性大腸菌 (EHEC) 感染症に対するワクチン開発 ・ウイルス様粒子 (VLP) ワクチン開発 |
| 臨床研究教 育管理学 | 植田 真一郎 blessyou@med (1193) | <ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究の現実的なデザイン、研究計画作成、データ管理、解析 ・臨床研究の品質管理 |
| 形成外科学 | 清水 雄介 yyssprs@med (1768) | <ul style="list-style-type: none"> ・動脈・静脈・リンパ管の解剖研究 ・神経再生の研究 ・脂肪幹細胞を用いた再生医療研究 ・手術器具・医療機器開発研究 |

教育課程においては、講義やセミナーによる体系的なコースワークと、多講座連携で推進しているプロジェクトに携わりながら専門的技術・知識を学ぶリサーチワークを提供する。

以下に、どの講座がどの研究プロジェクトを主として実施しているかを示す。

| 講 座 名 | ①健康長寿医学 プロジェクト | ②亜熱帯医学 プロジェクト | ③社会医学 プロジェクト | ④再生・再建医学 プロジェクト | ⑤臨床研究教育管理学 プロジェクト |
|-----------------|-------------------|------------------|-----------------|--------------------|----------------------|
| システム生理学 | ● | | | | |
| 放射線診断治療学 | ● | | | | |
| 脳神経外科学 | ● | | | ● | |
| 眼科学 | ● | | ● | | |
| 育成医学 | ● | ● | | ● | ● |
| 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | ● | | | ● | |
| 精神病態医学 | | | ● | | |
| 先進ゲノム検査医学 | ● | | | | |
| 再生医学 | | | | ● | |
| 分子解剖学 | ● | | | ● | |
| ゲノム医科学 | | | | | |
| 人体解剖学 | ● | ● | ● | | |
| 分子・細胞生理学 | ● | | | ● | |
| 薬理学 | ● | | | ● | |
| 胸部心臓血管外科学 | ● | | | ● | ● |
| 麻酔科学 | | | | ● | |
| 整形外科学 | ● | | | ● | |
| 腎泌尿器外科学 | ● | | | ● | |
| 顎顔面口腔機能再建学 | ● | | | ● | |
| 救急医学 | ● | | ● | | |
| 臨床薬理学 | ● | | ● | | ● |
| 薬物治療学 | ● | ● | | | |
| 医化学 | | | | | |
| 生化学 | ● | | | ● | |
| 腫瘍病理学 | ● | ● | | | |
| 細胞病理学 | | | | | |
| 衛生学・公衆衛生学 | ● | | ● | | ● |
| 法医学 | ● | | ● | | |
| 内分泌代謝・血液・膠原病内科学 | ● | | ● | ● | |
| 循環器・腎臓・神経内科学 | ● | | ● | ● | ● |
| 消化器・腫瘍外科学 | ● | | | ● | |
| 女性・生殖医学 | ● | | | ● | ● |
| 細菌学 | | ● | | | |
| 免疫学・寄生虫学 | ● | ● | | | |
| 皮膚科学 | ● | ● | | ● | |
| 先進医療創成科学 | ● | ● | | ● | |

| 講座名 | ①健康長寿医学プロジェクト | ②亜熱帯医学プロジェクト | ③社会医学プロジェクト | ④再生・再建医学プロジェクト | ⑤臨床研究教育管理学プロジェクト |
|----------------|---------------|--------------|-------------|----------------|------------------|
| 感染症・呼吸器・消化器内科学 | | | | | |
| ウイルス学 | | ● | | | |
| 生体防御学 | | ● | | | |
| 感染免疫制御学 | ● | ● | | | |
| 臨床研究教育管理学 | | | ● | | ● |
| 形成外科学 | | | | ● | |

(1) コースワーク

① 共通科目

「研究・生命倫理概論」、「研究方法論概論」、「実験動物学概論」、「情報医科学概論」、「分子細胞生物学概論」の5つの科目を共通の科目として必修とし、研究者の素地の涵養を目指す。これらの履修によって、大学院生に、課題設定、方法論、倫理観等の幅広い基礎的能力や俯瞰的なものの見方を修得させる。

② プロジェクト関連科目

沖縄の地域特性やアジアにおける国際貢献を見据えて、本研究科が推進する研究プロジェクトに対応した「健康長寿医学」、「亜熱帯医学」、「社会医学」、「再生・再建医学」、及び「臨床研究教育管理学」を設定する。各プロジェクトに対応した「健康長寿医学概論」、「亜熱帯医学概論」、「社会医学概論」、「再生・再建医学概論」、「臨床研究教育管理学概論」を選択必修科目として、その後の研究指導へと有機的につながる専門的知識と能力を修得させる。

③ 特別演習（研究室ローテーション）

研究室ローテーション（必修科目）は、コースワークの充実を目的とした制度で、大学院生が本人の科学的興味あるいは研究の関連性に基づいて、他の研究室のリサーチカンファレンスや論文抄読会に自由に参加出来る制度である。この制度により、大学院生が複数の講座において自らの研究分野以外の幅広い知識を獲得出来るようにする。さらに、研究者間のコミュニケーションが図られ、共同研究が活性化・円滑化されることを狙っている。

④ 大学院特別研究Ⅰ、Ⅱ

指導教員のもと、大学院特別研究Ⅰ、Ⅱ（演習、実習、いずれも必修科目）を履修する中で、自ら研究課題を発見し設定する能力、仮説を検証する能力、他人を納得させるためのコミュニケーション能力、国際性及び倫理観を修得させる。

大学院特別研究Ⅰ（演習）では、関連する科学論文等を題材として客観的評価の方法、批判的思考法を修得させ、さらにそれを他人に紹介できるプレゼンテーション能力を養う。

大学院特別研究Ⅱ（実習）では、学位論文とする研究課題の発見と設定する能力、矛盾しない仮説の設定とその検証、実験及びデータ解析能力、国際性と倫理観、さらには他人に納得させるコミュニケーション能力を修得させる。

⑤ 専門科目

専門科目により、大学院生の科目選択の柔軟性を確保し、多様な学識、方法論や技術を修得させる。医学の進歩に対応した効率的で質の高いコースワークを目指している。

(2) リサーチワーク

リサーチワークでは、多講座が有機的な連携を図りながら推進しているプロジェクトベースの研究

グループに大学院生を参加させて、近年の生命科学の進歩に対応した多彩な実験手技、方法論や知識を修得させる。リサーチワークをプロジェクトベースにすることにより、大学院生のみならず指導教員の側も講座間の垣根を意識しなくなり、学際的な共同研究の進展が予想され、大学院教育と研究において相乗効果を生むことが期待される。

(3) 体系的なコースワーク、リサーチワーク

下図1に示すように、大学院生は講義を中心としたコースワーク、研究室ローテーション、及び多講座間連携研究のリサーチワークを体系的に学ぶことにより、複雑高度化する医学領域における知識と高度な研究技術を体得することが出来る。

学位取得

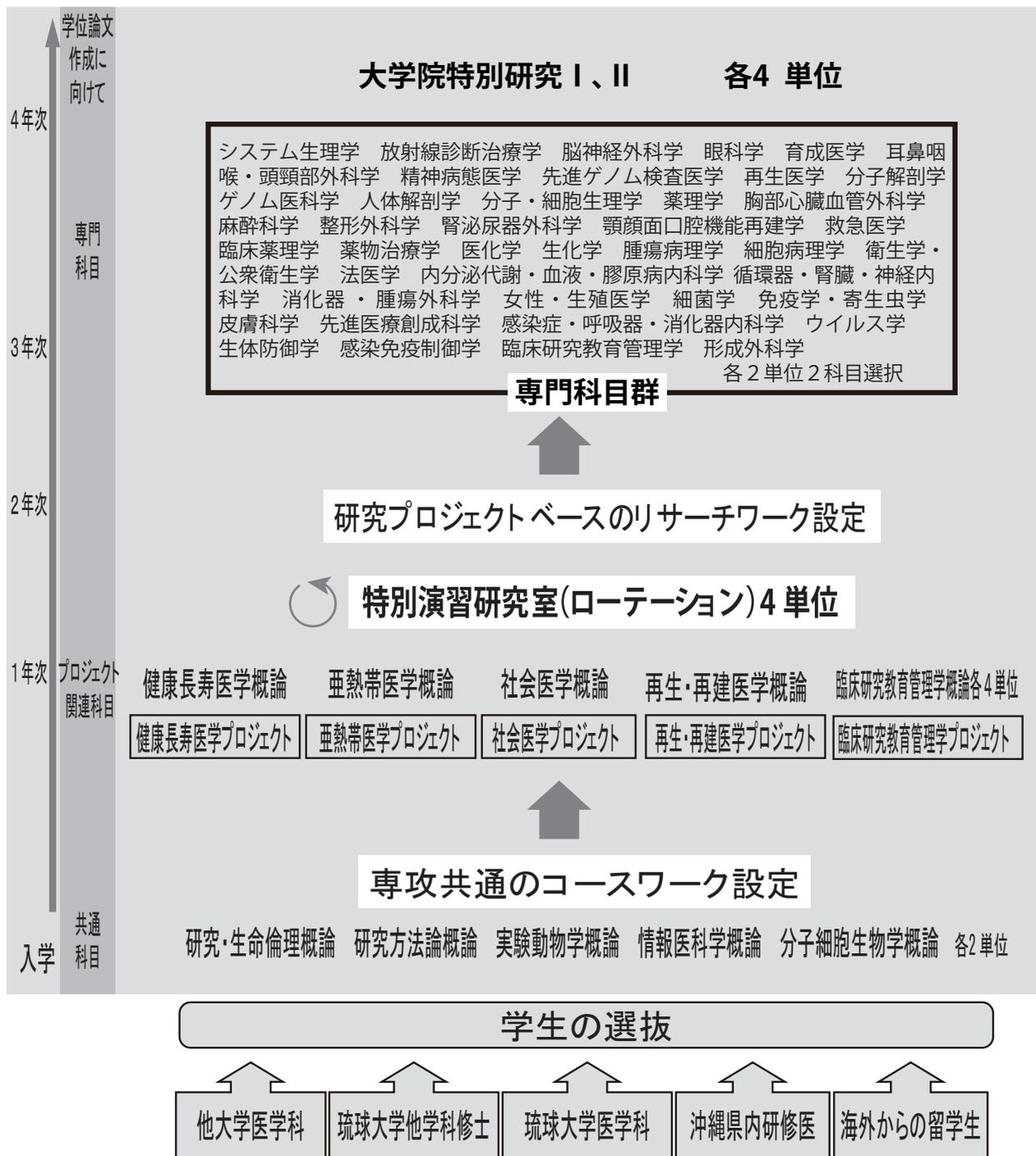


図1. 自己改新力(self-renovation ability)と生涯持続力(sustainability in total life)を持った優れた人材を育成

2. その他の取り組み

(1) 中間発表会

博士課程教育の質保証に向けて、博士課程3年次に中間発表会を実施する。この中間発表会において、博士論文作成に必要な基礎知識、コミュニケーション能力、研究課題の設定能力、解決方法とそれに向けた準備状況及び研究進捗状況等を、それまでのコースワーク等を通じて修得しているか否か包括的に審査する。

(2) 講義を欠席した場合の取扱い

大学院講義（共通科目）の映像資料のみをDVD撮影し、やむを得ず、講義を欠席した学生に対して、附属図書館医学部分館の視聴覚室のみにて、当該DVDを視聴の上、担当教員の口答試問を受ける。

(3) 副指導教員制度

副指導教員制度を導入し、研究倫理教育の充実を目指す。副指導教員の役割は、分野の垣根を越えた研究指導の補助を行うことや、大学院生が研究倫理に疑問を抱いた場合、主指導教員と独立したメンターとして随時大学院生の相談相手になること、及び学位論文投稿前の事前審査を行うことである。

(4) インターンシップ制度

インターンシップ制度を導入し、大学院生の就職支援体制の確立を目指す。学務委員長あるいは医学研究科長が、大学院生が希望する企業や研究施設にインターンシップの仲介・斡旋を行って、短期間のインターンシップを実施する。

令和5年度
琉球大学大学院医学研究科（博士課程）入学志願票

| | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|-----------------|------------|----------------|---------|--------|---------|---|--|--|
| 出願区分 | 1. 一般 2. 社会人 3. 外国人留学生 4. 入学資格 (いずれか該当するものを○でかこむこと。) | | | | 受験番号 | ※ | | | | |
| ふりがな | | | | | | | 性別 | | | |
| 氏名 | | | | | | | 男・女 | | | |
| 生年月日 | | 昭和 平成 年 月 日生 | | | | | 年齢 歳 | | | |
| 志望する（教育研究講座等）及び指導教員 | | 第1志望 | | 講座 (プロジェクト) | | 指導教員 | | | | |
| | | 第2志望 | | 講座 (プロジェクト) | | 指導教員 | | | | |
| 出願資格 | | 1. 国立 | 年 月 | | 大学 学部 | | 学科 卒業 | | | |
| | | 2. 公立 | 年 月 | | 大学院 研究科 | | 課程 | | | |
| | | 3. 私立 | 専攻 | | | | 修了 | | | |
| | | 4. その他 | | | | | 修了見込 | | | |
| 医師国家試験 | | 年 月 日 合格 | | | | 医籍登録番号 | | 号 | | |
| 現住所 | | (郵便番号) | | | | | | | | |
| | | 電話番号 | 市外局番 () - | | | 携帯番号 | - - | | | |
| 試験・入学等に関する通知場所 | | (郵便番号) | | | | | | | | |
| | | 電話番号 | 市外局番 () | | | - | | | | |
| | | | 携帯番号 () | | | - | | | | |
| | メールアドレス | PC | | | 携帯 | | | | | |

記入上の注意

- 1 青又は黒のインクを使用し、楷書で記入すること。
- 2 現住所は、詳細に記入すること。(間借り等の場合は某方まで記入すること。)
- 3 履歴事項は、裏面に記入すること。
- 4 免許・資格等の欄は、該当する者のみ記入すること。
- 5 入学資格認定を要する者は、出願区分のうち1～3を併せて選択すること。
- 6 ※印欄は、記入しないこと。

履 歴 事 項

| | | | 氏 名 |
|-------------|----------|-------|---------------------|
| 学 歴 | 年 月 | 修業年限 | 事項（高等学校から記入してください。） |
| | 年 月～ 年 月 | 年 | |
| | 年 月～ 年 月 | 年 | |
| | 年 月～ 年 月 | 年 | |
| | 年 月～ 年 月 | 年 | |
| | 年 月～ 年 月 | 年 | |
| 職 歴 | 年 月 | 勤 務 先 | |
| | 年 月～ 年 月 | | |
| | 年 月～ 年 月 | | |
| | 年 月～ 年 月 | | |
| | 年 月～ 年 月 | | |
| | 年 月～ 年 月 | | |
| 研 究 歴 | 年 月 | 研 究 先 | |
| | 年 月～ 年 月 | | |
| | 年 月～ 年 月 | | |
| | 年 月～ 年 月 | | |
| | 年 月～ 年 月 | | |
| | 年 月～ 年 月 | | |
| 研究計画概要（必須） | | | |
| | | | |
| | | | |

令和5年度
琉球大学大学院医学研究科（博士課程）受験票

| | | | |
|--|---|--|----------|
| 出願区分 | 1. 一般 2. 社会人 3. 外国人留学生 (いずれか該当するものを○でかこむこと。) | | |
| 受験番号 | ※ | | |
| ふりがな | | | |
| 氏名 | | | |
| 志望する (講座・プロジェクト) | 第1志望 | | 講座 |
| | | | (プロジェクト) |
| | 第2志望 | | 講座 |
| | | | (プロジェクト) |
| 写真貼付 正面向き上半身 脱帽3ヶ月以内に撮影したもの (縦4×横3cm) | | | |

- 注 1 ※印欄は、記入しないこと。
 2 この受験票は机右上に掲示しておくこと。
 3 この受験票を紛失した場合は、直ちに届け出ること。
 4 辞書は、英和、和英、医学辞書持込み可（電子辞書は持込み不可）。

----- きりはなさないこと。 -----

令和5年度
琉球大学大学院医学研究科（博士課程）写真票

| | | | |
|--|---|--|----------|
| 出願区分 | 1. 一般 2. 社会人 3. 外国人留学生 (いずれか該当するものを○でかこむこと。) | | |
| 受験番号 | | | |
| ふりがな | | | |
| 氏名 | | | |
| 志望する (講座・プロジェクト) | 第1志望 | | 講座 |
| | | | (プロジェクト) |
| | 第2志望 | | 講座 |
| | | | (プロジェクト) |
| 写真貼付 正面向き上半身 脱帽3ヶ月以内に撮影したもの (縦4×横3cm) | | | |

| | |
|---------|-------|
| 試験出欠確認欄 | 出 ・ 欠 |
|---------|-------|

- 注 1 ※印欄は、記入しないこと。

研究歴証明書（博士課程）

氏名 _____

上記の者が、下記のとおり研究歴を有することを証明します。

記

| | |
|------------------|------------------|
| 在職した機関 部局及び身分 | |
| 研究期間 | 年 月 ～ 年 月（ 年 月間） |
| 研究題目及び研究内容 | |
| 指導教員・職・氏名 | |

令和 年 月 日

所在地

機関名

機関の長

印

研 究 業 績 目 録 (博士課程)

| 氏 名 | | | |
|--------------------------|------------------|-------------------------|----------------|
| 学術論文, 研究発表 報告, 特許等の名称 | 発行, 発表の 年 月 日 | 発行所, 発表雑誌又 は発表学会等の名称 | 備 考 (共著者名称) |
| | | | |

- (注意) 1. 年代順に記入すること。
2. 学術論文等を別刷又は写しで添付すること。
3. パソコン等使用により作成する場合は、本様式に直接又は本様式に準じて別紙 (A 4 判) に作成すること。

志 望 理 由 書 (博士課程)

| | |
|-----|--|
| 氏 名 | |
| | |

(注意) パソコン等使用により作成する場合は、本様式に直接又は本様式に準じて別紙 (A 4判) に作成すること。

受 験 許 可 書 (博士課程)

職 名

氏 名

上記の者が、貴大学院医学研究科を受験することを許可します。

令和 年 月 日

事業所名

所属長

印

琉球大学大学院医学研究科長 殿

出願時におけるチェックリスト

現在、他の研究機関等において作成中もしくは作成した研究論文がありますか？

(はい・ いいえ)

学位論文については入学後に作成したものに限る。

入学後に他の大学院及び研究機関等において研究指導を受ける予定がありますか？

(はい　　いいえ)

他の大学院又は研究所等においての研究指導を最長2年間受けることが出来る。

その際得たデータを使用する場合、本研究科においても倫理審査及び動物実験等の必要な手続きを行うこと。

有職者の場合、通学が可能ですか？

(はい　　いいえ)

原則として、入学後通学できる範囲に限る。

志願者氏名

希望所属講座

署名

指導予定教員

所属講座

署名

振込み上の注意

- 「検定料振込書」の※印欄を黒のボールペン（消えるボールペンは不可）で正確に記入してください。
《依頼日、入学志願者氏名（フリガナ）、住所、電話番号、振込先（枠内に○印）》
- 必ず金融機関（銀行等）の窓口で振り込み、ATM（現金自動預払機）は使用しないでください。
- 振込手数料については、志願者本人負担となります。
- 金融機関窓口から「検定料納付証明書（大学用）」を受け取る際は、取扱金融機関収納印を確認してください。
- 「検定料納付証明書（大学用）」は出願書類に同封して提出してください。

検 定 料 振 込 書

※医学研究科（博士課程）

(振込前に志願者で切離し)

検定料納付証明書（大学用）

★出願書類に同封して提出ください。

| | | | |
|-----------|-------------------------------|-----------------|---------|
| ※依頼日 | | 年 月 日 | |
| 金額 | | ¥30,000- | |
| ※振込先 | 行いずれかのする銀 | 琉球銀行宜野湾支店（普通） | 428711 |
| | | 沖縄銀行我如古支店（普通） | 1540366 |
| | | 沖縄海邦銀行真栄原支店（普通） | 0563358 |
| | | みずほ銀行那覇支店（普通） | 1478859 |
| ※募集区分 | 741 | | |
| | (フリガナ) | | |
| ※依頼者(志願者) | 氏 名 | | |
| | 令和5年度 琉球大学 検定料 医学研究科（博士課程） | | |

(大学提出時に切離し)

| | | | |
|-------------------------------|-----------|-----------------|---------|
| 振込金（兼手数料）領収書 | | 手 数 料 | |
| ※依頼日 | | 年 月 日 | |
| 振 込 金 額 | | ¥ 3 0 0 0 0 | |
| ※振込先 | 行いずれかのする銀 | 琉球銀行宜野湾支店（普通） | 428711 |
| | | 沖縄銀行我如古支店（普通） | 1540366 |
| | | 沖縄海邦銀行真栄原支店（普通） | 0563358 |
| | | みずほ銀行那覇支店（普通） | 1478859 |
| 受取人 口座名 | | 国立大学法人 琉球大学 | |
| ※依頼者(志願者) | (フリガナ) | | |
| | 氏 名 | | |
| 令和5年度 琉球大学 検定料 医学研究科（博士課程） | | | |

上記のとおり領収しました。

(振込時金融機関で切離し)

振 込 依 頼 書

電信扱

| | | | |
|-----------|------------------------------------|--|---------|
| 勘定科目 | | | |
| ※依頼日 | 年 月 日 | 振込指定 | 電信扱 |
| ※振込先 | 行いずれかのする銀 | 琉球銀行宜野湾支店（普通） | 428711 |
| | | 沖縄銀行我如古支店（普通） | 1540366 |
| | | 沖縄海邦銀行真栄原支店（普通） | 0563358 |
| | | みずほ銀行那覇支店（普通） | 1478859 |
| 口受取 座名 | | コクリツガ ｲｸﾞ ﾎﾞｸｼﾞﾝ ﾚｷｳｷｳﾀﾞ ﾎﾞｸﾞ 国立大学法人 琉球大学 | |
| ※募集区分 | 741 | ※フリガナ | |
| | ※ 氏 名 | | |
| ※依頼者(志願者) | ※（住所） | | |
| | (電話番号) | | |
| 備考 | 令和5年度 琉球大学 検定料 医学研究科（博士課程） | | |
| | 【振込期間】 | | |
| | [1次募集] | 令和4年 7月27日（水）から 令和4年 8月10日（水）まで | |
| [2次募集] | 令和5年 1月17日（火）から 令和5年 1月31日（火）まで | | |

取扱店へのお願
○太枠内を打電してください。
○募集区分、フリガナの順に打電してください。

取扱金融
機関
収納印

取扱金融
機関
収納印

取扱金融
機関
収納印

(取扱店→振込人→大学)

(取扱店→振込人)

(取扱店用)